

SMBCグループにおける生成AI活用の取組

2025年6月18日（水）



SUMITOMO MITSUI
BANKING CORPORATION

生成AIへの投資・活用事例の創出

- 昨年、生成AIを活用した業務の効率化・高度化を目的に500億円の投資枠を設定
- 投資枠設定後、ユースケースの数は大きく増加。一部タスクにおけるAI活用だけでなく、業務プロセス全体にAIEージェントを活用していく動きもスタート

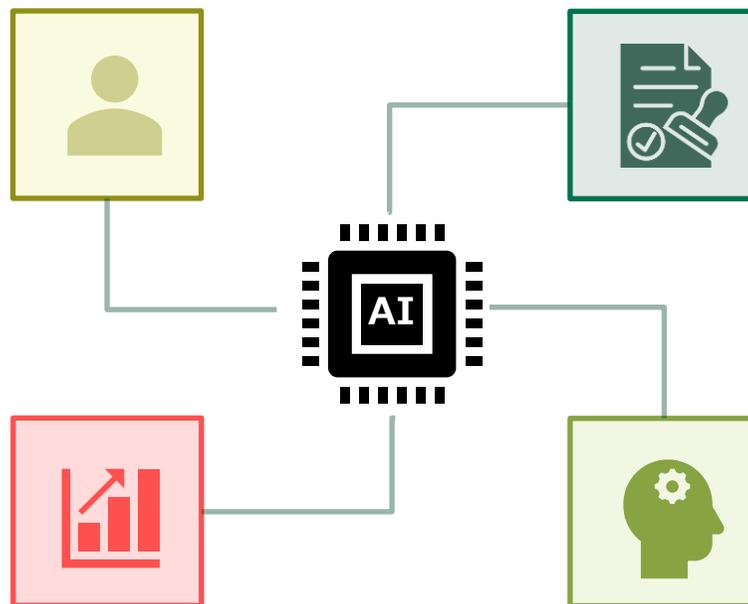
主な取組事例

AI-CEO

CEOの知見・考え方を反映させたAIを社員向けに提供し、顧客提案や企画書作成等を支援

CFOの意思決定支援

AIで営業拠点の財務情報等の可視化や要点抽出を行い、CFOの情報収集・分析等を支援



提案業務の高度化

提案内容の立案から提案書作成までの業務プロセスをAIEージェントが支援

SMBC-GAI

全職員が利用でき、社内に蓄積されたデータを学習することで、広範な検索が可能

■ (Appendix) 生成AIを活用した主な取組①

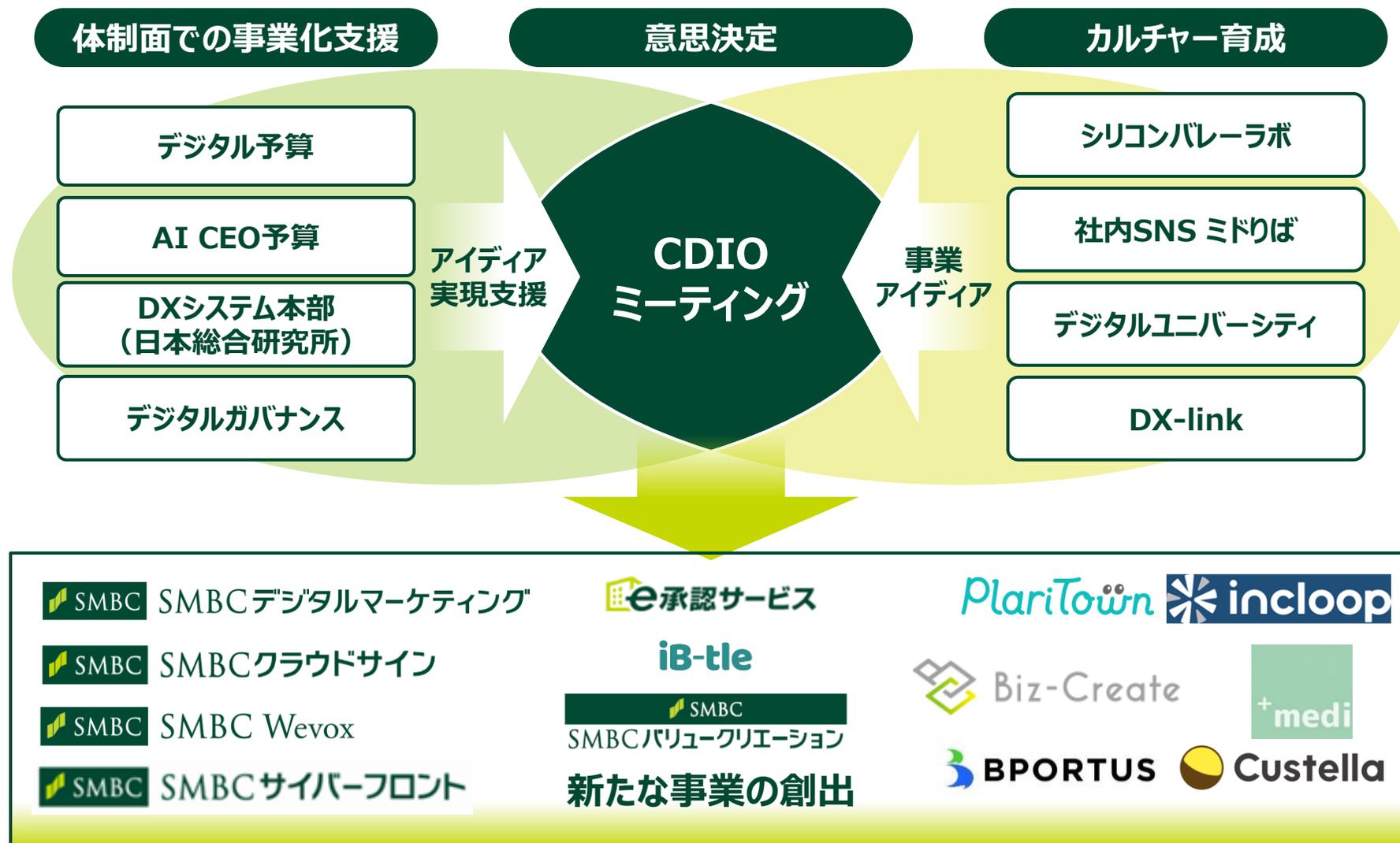
検討開始時期	案件	概要
2023年7月	SMBC-GAI	<ul style="list-style-type: none">安全性を確保した、生成AIを利用できる社内環境を構築。順次機能拡充を実施
2024年5月	規制関連情報の収集	<ul style="list-style-type: none">生成AIとRPAを組合せ、規制関連情報の収集と要約を自動化
2024年8月	融資関連規程の検索効率化	<ul style="list-style-type: none">融資関連規程の検索をAIを用いて効率化。融資業務の円滑な実行をサポート
2024年11月	AI社長	<ul style="list-style-type: none">社長の考え方を学習させたAIを構築し、組織カルチャーの浸透・次世代リーダーの育成等に活用
2024年11月	CFO Agent	<ul style="list-style-type: none">法人顧客向けの財務情報ダッシュボードを提供し、自社財務の見える化・意思決定を支援
2024年11月	セールスシミュレーター	<ul style="list-style-type: none">顧客提案スキルの向上に向け、営業のロールプレイングを支援するAIを構築

(Appendix) 生成AIを活用した主な取組②

検討開始時期	案件	概要
2025年2月	市場業務の高度化	<ul style="list-style-type: none">市場業務におけるポートフォリオ分析、取引データ分析、マーケットデータ分析等をAIで高度化
2025年3月	コールセンター業務改革	<ul style="list-style-type: none">照会内容の要約、回答案の生成等、コールセンター業務における顧客対応の高度化・効率化
2025年3月	債権管理業務の高度化	<ul style="list-style-type: none">適切な顧客アプローチ方法をAIがレコメンドする等、顧客ニーズに適合した債権管理業務を支援
2025年3月	提案書作成の自動化・高度化	<ul style="list-style-type: none">法人取引における提案内容のアイデア立案、提案書作成をAIエージェントが支援。提案業務を高度化
2025年3月	トランザクションビジネス提案高度化	<ul style="list-style-type: none">蓄積されたトランザクションビジネスに関する暗黙知を形式知化し、若手・初任者の業務水準向上を支援
2025年4月	ホールセールビジネス高度化	<ul style="list-style-type: none">顧客ニーズに合うソリューション、提案方法をAIがレコメンドする等、法人営業を高度化

事業アイデアを実現する体制 ～CDIOミーティング

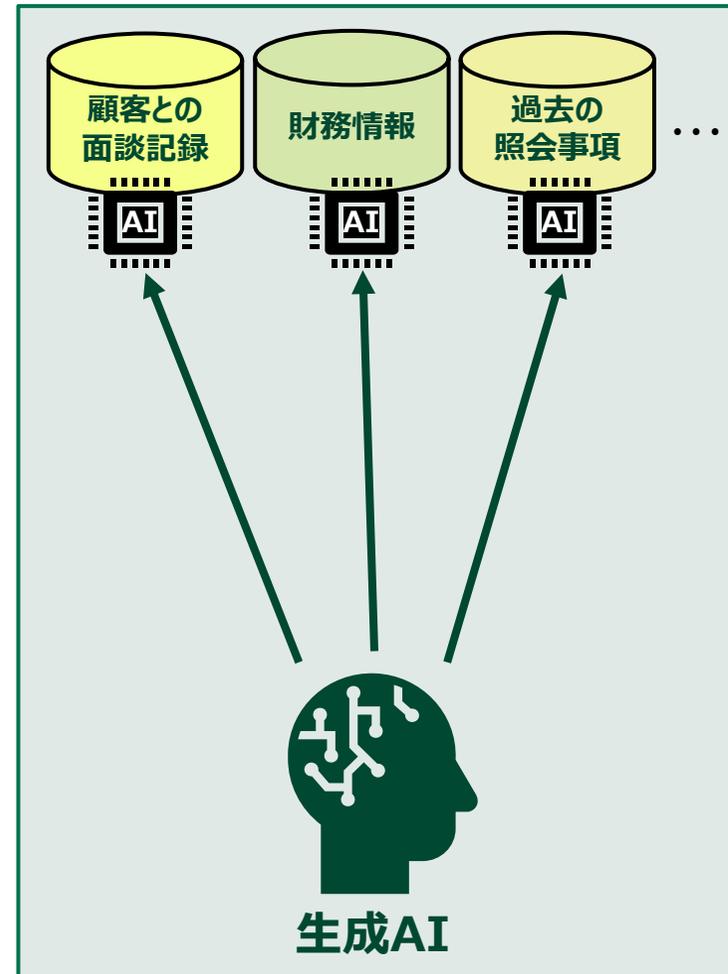
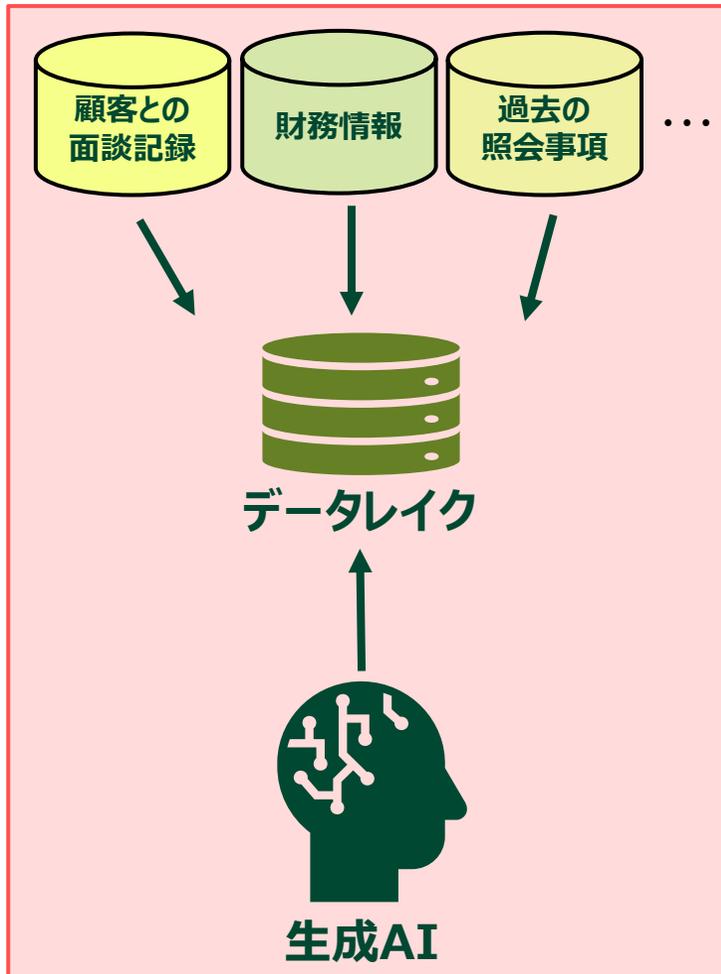
- 事業のアイデア段階から事業化を支援する意思決定の場としてCDIOミーティングを毎月開催



生成AI活用の課題（データ）

- AIを効果的に活用するため、様々なデータをAIが利用できる状態にクレンジングすることが必要
- 今後の技術進展も見据え、どのようにデータを持つか、インフラ設計が重要な論点になる

(例)



AI活用におけるガバナンス体制構築

- 生成AIの活用と並行して、関係部署横断でガバナンスを強化



体制構築のポイント（AI事業者ガイドライン等）

人間中心

透明性

公平性

教育・リテラシー

セキュリティ確保

安全性

アカウント
ビリティ

プライバシー
保護

公正競争確保

イノベーション



AI活用による保険事業の進化

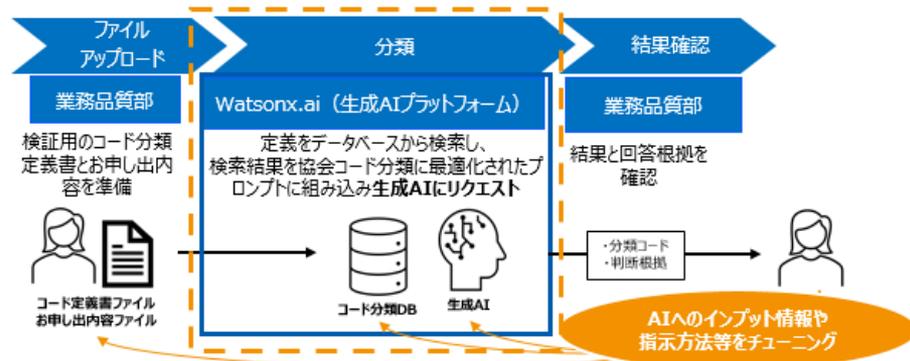
日常業務でのAI技術の活用

ChatGPTの業務活用



- 社員の75%以上が通常業務に活用しており、グループ全体では1日あたり平均15,000回利用
- 社員一人ひとりに専属のコンシェルジュがついているかのように、生成AIが日々の業務をサポートする
- AIをパートナーにすることで、「新しい働き方」と「創造性・付加価値の高い価値提供」を実現

Watsonx.AIによるお客様の声分析



- 年間1万8000件にのぼるお客様からの要望や提言を、「人が読み込み・分類し、確認」から「生成AIが読み込み・分類し、人が確認」へと変革
- 社内の作業時間は約半分に

保険事業でのAI技術の活用

「生成AI」による保険 + αでの課題解決提案



生成AIにより、経営者との対話と課題解決型アプローチを具体的にサポート！

次の一步の力になる。

- 中小企業経営者との対話から**生成AIが経営課題を抽出し、解決策を提案**
- 当社で初めてお客様への提案に生成AIを活用した取組
- 商品・ソリューションの“プロダクトアウト”ではなく、経営者との対話をもとに**お客様それぞれの課題にフォーカスした“マーケットイン”を実現**

生成AIによる損傷画像分析



インプット



AI

アウトプット(*)

(*)イメージかつ、アウトプットの一部

画像分析結果

修理項目	写真で損傷確認可能	損傷状態	損傷新旧	損傷原因	損傷範囲	妥当な修理費用上限
屋根	○	亀裂	1ヶ月以上	<ul style="list-style-type: none"> 経年劣化 飛来物による衝撃 	100 cm以上	500,000円

- Shift Technology社との協業により、生成AI（OpenAI GPT-4o）を用いて、**損傷画像から経年劣化や損傷範囲を分析（世界最先端の技術的取組）**
- 見積書記載の修理項目について、**損傷画像から「損傷の有無」「損傷状態」「損傷新旧」「損傷原因」「損傷範囲」を判定**



AIで進化する保険

経営判断

新たな技術を活用した経営



創造的価値提供の実現

提供価値の非連続な進化



保険業務の効率化

技術の進化と共に存のビジネスを再構築



AI 官民フォーラム (第1回)

2025年6月18日

日本マイクロソフト株式会社

金融サービス事業本部 銀行・証券本部





2025 Work Trend Index を公開: 新たな組織概念 “フロンティア企業”の誕生

- ✓ 31か国の31,000人を対象に調査
- ✓ M365の数兆件にのぼる生産性シグナルの分析や、LinkedInの労働と雇用の傾向を分析。
- ✓ 新たにAIを活用するスタートアップ、経済学者、学者からの洞察を追加

<https://news.microsoft.com/ja-jp/2025/04/24/250424-the-2025-annual-work-trend-index-the-frontier-firm-is-born/?mssockid=323a2aac7b236fe0076d3b5f7a7e6efe>

フロンティア企業への道のり

フェーズ 1

アシスタントを持つ人



すべての従業員に
より良く、より迅速に
働くのに役立つ
AIアシスタントがいます

フェーズ 2

人主導のエージェント



「**デジタルな同僚**」として
エージェントがチームに参加
人の指示で特定の
タスクを引き受けます

フェーズ 3

人主導、エージェント操作



人が指示を設定し、
**エージェントがビジネス
プロセス全体とワークフローを
実行**し、必要に応じて
チェックインします

人間の労働は限界に達しています

アジアにおけるキャパシティギャップ

61%

(+8% 対グローバル)
のAPACリーダーが、
生産性を向上させる
必要があることに
同意しました

84%

(+4% 対グローバル)

のAPAC労働者が、
仕事をするのに十分
な時間/エネルギーが
不足していると回答
しています

アジア太平洋における国ごとの数値

オーストラリア:47%、79%
中国:75%、89%
香港:61%、86%
インド:64%、89%
インドネシア:63%、88%
日本:67%、83%
マレーシア:61%、83%
ニュージーランド:59%、79%
フィリピン:46%、81%
シンガポール:58%、81%
韓国:65%、81%
台湾:47%、90%
タイ:75%、88%
ベトナム:67%、84%

北米: 43%、72%
ラテンアメリカ: 44%、78%
ヨーロッパ: 49%、75%

出典: Microsoft Work Trend Index Survey 2025、80% (n = 31,00)、53% (n = 8,927)。

グローバルにおけるAI活用事例

Barclays to roll out Microsoft 365 Copilot to 100,000 colleagues, transforming employee experience

Barclays Bank PLC (Barclays) とは、Microsoft 365 Copilot を世界中の 100,000 人の従業員に展開することを発表しました。この取り組みにより、AI エージェントを活用して従業員体験を変革し、必要な情報へのアクセスを容易にします。Microsoft 365 Copilot は、Barclays 独自の従業員向けツールに統合され、社内のコラボレーションツール、ポータル、オンラインリソースを一元的に利用できるようになります。これにより、情報検索が簡素化され、生産性が向上し、従業員体験が強化されます。

Colleague AI Agent (従業員向けセルフサービス AI エージェント)

Microsoft 365 Copilot を通じて利用可能な従業員セルフサービスソリューション、主要なパートナーコネクタや Barclays 独自のアプリと統合されたエージェントで、出張予約、ポリシー遵守の確認、人事関連の質問への回答など、重要な業務をセルフサービスで簡単に実行する。

Content Search (コンテンツ検索)

ユーザープロフィールに基づいてパーソナライズされたセマンティック検索により、関連情報を簡単に発見できる。ロケーションベースのコンテキストや意味検索による関連情報の抽出も可能。

Colleague Front Door (従業員向けダッシュボード)

Microsoft Viva を通じてアクセスできる包括的なダッシュボードで、オフィスのデスク予約、年次休暇申請、重要なお知らせ配信、パーソナライズされたニュースやお知らせなどを提供する。

At Barclays, we've been leveraging the power of AI, and now GenAI, to drive deeper insights, improve efficiency and create more intuitive experience across the organization. Our roll-out of Copilot, integrated with our colleague productivity tool, is a significant step forward in simplifying the way we work, making it easier to get things done. It also highlights the collaborative partnership with Microsoft – where innovation is shaped by practical application at scale.

Craig Bright, Group Chief Information Officer and Deputy Group Co-Chief Operating Officer, Barclays,

AI エージェントを企業に実装するための技術要素

- 企業がAIによるビジネスの効率化・高度化を行う際に必要なAI技術はAI エージェントが包含している。
- ユーザーインターフェースとエージェント機能はAIEージェントプラットフォームとして抽象化、汎用化が進むため企業はAIEージェントによる業務の効率化と高度化にフォーカスできるようになる。



AI エージェントを企業に実装する際の重要なポイント

- AIエージェントの活用を進めるためには、人間に代わって作業するAIエージェントの認証と認可、構造化データと非構造化データの権限とアクセスコントロールが重要になる。
- AIエージェントが人間の代理人として持つべき権限を設計し、データ側も適切なアクセスコントロールを適用する必要がある。

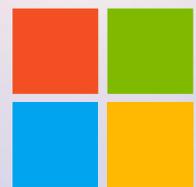


エージェントを人と同じように管理

- ✓ AIエージェントに対して人間と同様にIDを付与して可視化する仕組みが必要
- ✓ これにより、エージェントがアクセスするリソースに対する認証や制御を強化
- ✓ エージェントの作成から削除までのライフサイクルも管理

データアクセス権限の管理

- ✓ AIエージェントを使うユーザーに閲覧権限がある情報しか参照、要約しないような設計と実装が必要
- ✓ アクセス権のないデータはAIであっても一切取得、利用不可とする
- ✓ 権限設定を改めて点検し、必要最小限の権限付与原則を確認



Microsoft





金融庁 AI官民フォーラム パネルセッション

金融領域における生成AI活用のトレンドとチャレンジ

2025年6月18日

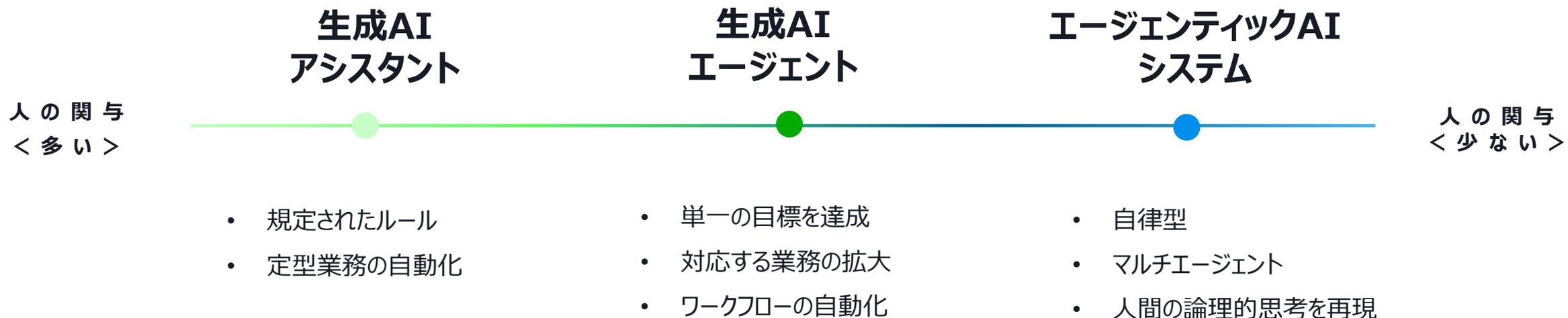
飯田哲夫

アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社
金融事業開発本部長

生成AI活用のトレンド

1. ユースケースの広がり
2. 業務アプリケーションへの組み込み
3. エージェントAI

エージェントAIへの進化



エージェント型AIシステムの例：投資判断エージェント

「短期金利の変化が経済成長とインフレーションにどう影響しますか？
また、それは株式及び債券市場のリターンにどのような結果をもたらすでしょう？」

オーケストレーション

1

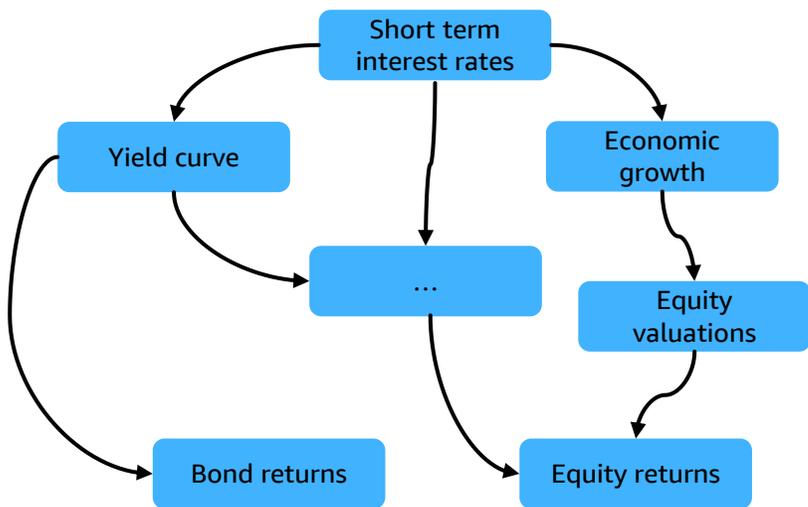
因果関係図の作成

2

データ収集

3

コード生成 / チャートの作成



User request	Data set
Changes in short term interest rates	Short Rate
Economic growth	Real GDP
Inflation	Headline CPI
Equity market returns	Equity excess returns
Bond market returns	Bond (10-yr) excess returns

```

    # Load the data series
    short_rate = ... get_data_reference('1518712-1784-4202-4481-15a6c641801712')
    real_gdp = ... get_data_reference('12040171-4201-4800-4201-15a6c641801712')
    headline_cpi = ... get_data_reference('12040171-4201-4800-4201-15a6c641801712')
    equity_returns = ... get_data_reference('17702847-4204-4704-4012-15a6c641801712')
    bond_returns = ... get_data_reference('17702847-4204-4704-4012-15a6c641801712')

    # Convert rates to decimal
    short_rate = short_rate * 0.01

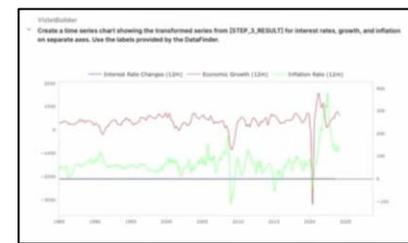
    # Calculate the causal changes for rates, growth, and inflation
    rates_change = (short_rate - short_rate.shift(1)) * 100
    growth = (real_gdp - real_gdp.shift(1)) * 100
    inflation = (headline_cpi - headline_cpi.shift(1)) * 100

    # Calculate rolling 12-month returns for equity and bond markets
    equity_12m = equity_returns.rolling(12).mean()
    bond_12m = bond_returns.rolling(12).mean()

    # Create a DataFrame for transformed series
    rates_df = rates_change.to_frame(name='rates_change')
    growth_df = growth.to_frame(name='growth')
    inflation_df = inflation.to_frame(name='inflation')
    equity_12m_df = equity_12m.to_frame(name='equity_12m')
    bond_12m_df = bond_12m.to_frame(name='bond_12m')

    # Use pd.concat to join the transformed series
    series_df = pd.concat([rates_df, growth_df, inflation_df, equity_12m_df, bond_12m_df], axis=1)

    # Create a dictionary to map series names to their names
    series_names = {}
    for series in series_df:
        series_names[series] = series
  
```



生成AI活用をスケールさせるためのチャレンジ

1. 組織的な展開への取り組み
2. データプラットフォームの整備
3. コストコントロール
4. 責任あるAI

プラットフォームとしてのガードレールの仕組み（例）



有害なコンテンツのブロック

基盤モデル自体の保護機能を上回る制御の提供



応答のフィルタリング

RAGや要約タスクにおけるハルシネーションの抑制



モデル横断でのサポート

ファインチューンされたモデルを含むサポートする全てのモデルへの対応



コンプライアンス

業界固有の規制や社内規定への準拠をサポート



信頼の確立

一貫性のある安全な体験を通じてAIとの対話への信頼を確立



Thank you!

金融庁官民フォーラム #1
パネルセッション

金融分野におけるAIの一層の活用に向けた 課題とAIガバナンス構築に向けた取組事例

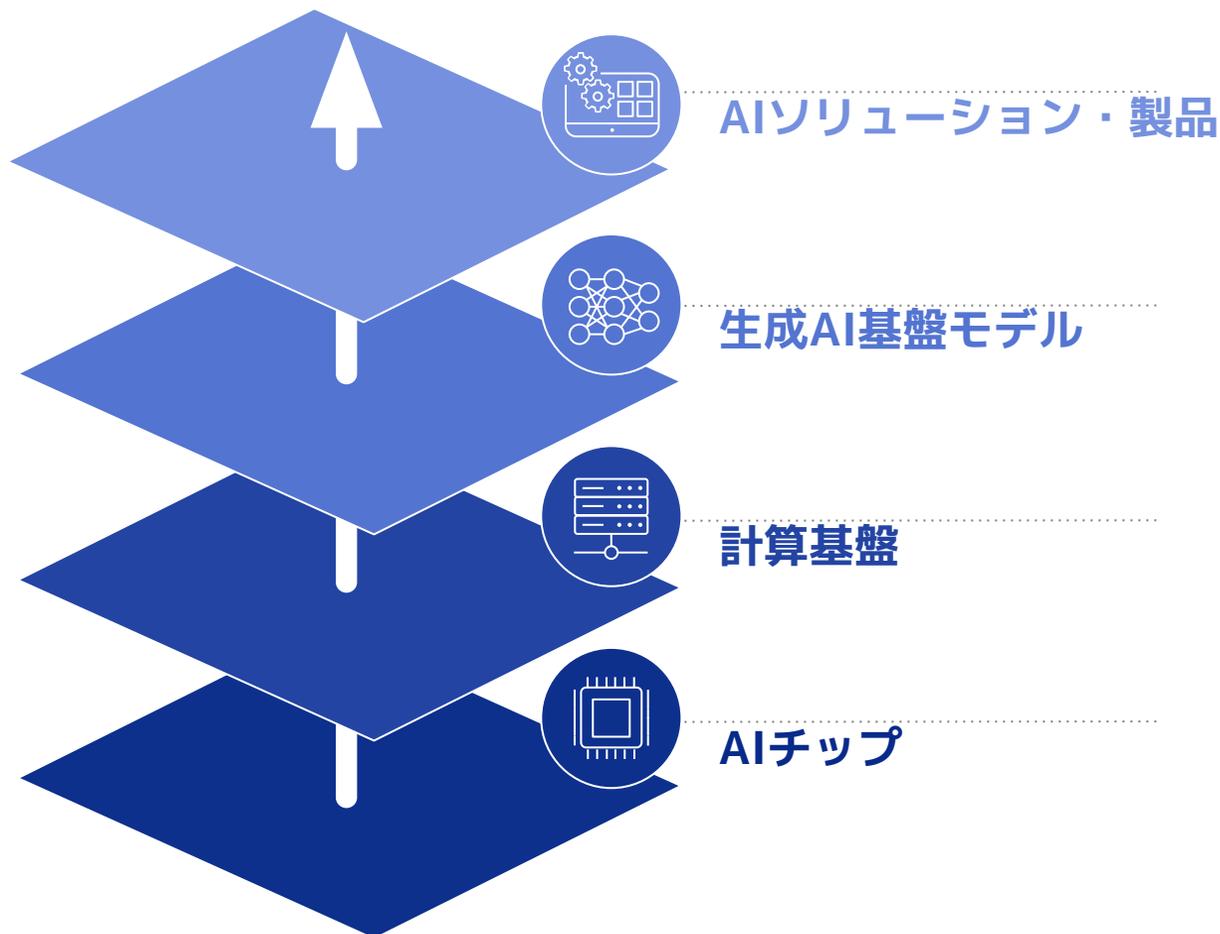
株式会社 Preferred Networks
CFO 堅山 耀太郎

2025年6月18日



PFNの事業: AI技術のバリューチェーンを垂直統合

PFNは、チップ、計算基盤、生成AI基盤モデル、ソリューション・製品まで、AI技術のバリューチェーンを垂直統合し、ソフトウェアとハードウェアを高度に融合することで、競争力の高い技術の開発および産業応用を進めています。



様々な産業向けのAIソリューション・製品



PLaMo

PLaMo Prime (国産LLM)
PLaMo Lite (エッジ向けSLM)

PFP

物質のエネルギー計算モデル



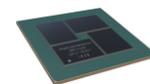
GPUクラスタ



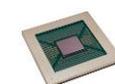
MN-3
(MN-Core™
クラスタ)

PFCP

MN-Core™ 2を
計算資源とした
クラウドサービス



MN-Core™



MN-Core™ 2



生成AI (推論) 向け
MN-Core L1000
(2026年提供予定)



MN-Core
次世代

金融向けソリューションの全体像

特に数理ファイナンスおよびLLM領域における最先端の知見を有し、高度なソリューションを提供できるのが金融チームの強み。アカデミアとも積極的に関わっており、実務と理論を高度に融合することで、極めて難易度の高い課題にも適切なアプローチが可能。

ソリューション



金融市場

バイサイド

- 深層学習を用いたポートフォリオの最適化とそれを活用した投資信託の開発
- 取引データに基づく売買シグナルの抽出、およびそれに基づく銘柄推奨アルゴリズムの開発

セルサイド

- 深層学習によるデリバティブ取引におけるヘッジ戦略の高度化 (Deep Hedging)
- グリークスを補完する、オプション取引における新たなリスク指標の開発

リテール

- 伝統的なデータ分析から高度な機械学習技術を活用したサービスまで幅広くソリューションを提供



派生領域

- 電力、不動産など、金融分野にかかわらず、市場分析等を要する他業種に対しても、機械学習・深層学習を用いたソリューションを提供



大規模言語モデル

- 金融分野におけるLLM評価のベンチマーク開発 (国内におけるデファクトスタンダード)
- 追加学習による金融関連タスクの精度向上 (100B級のドメイン特化モデルの構築にも取り組む)
- LLMを応用した金融領域における新規ビジネスの開発

研究開発



論文発表

- No-Transaction Band Network (Imaki+2021)
- Deep Portfolio Optimization (Imajo+2021)
- Adversarial Deep Hedging (Hirano+2023)



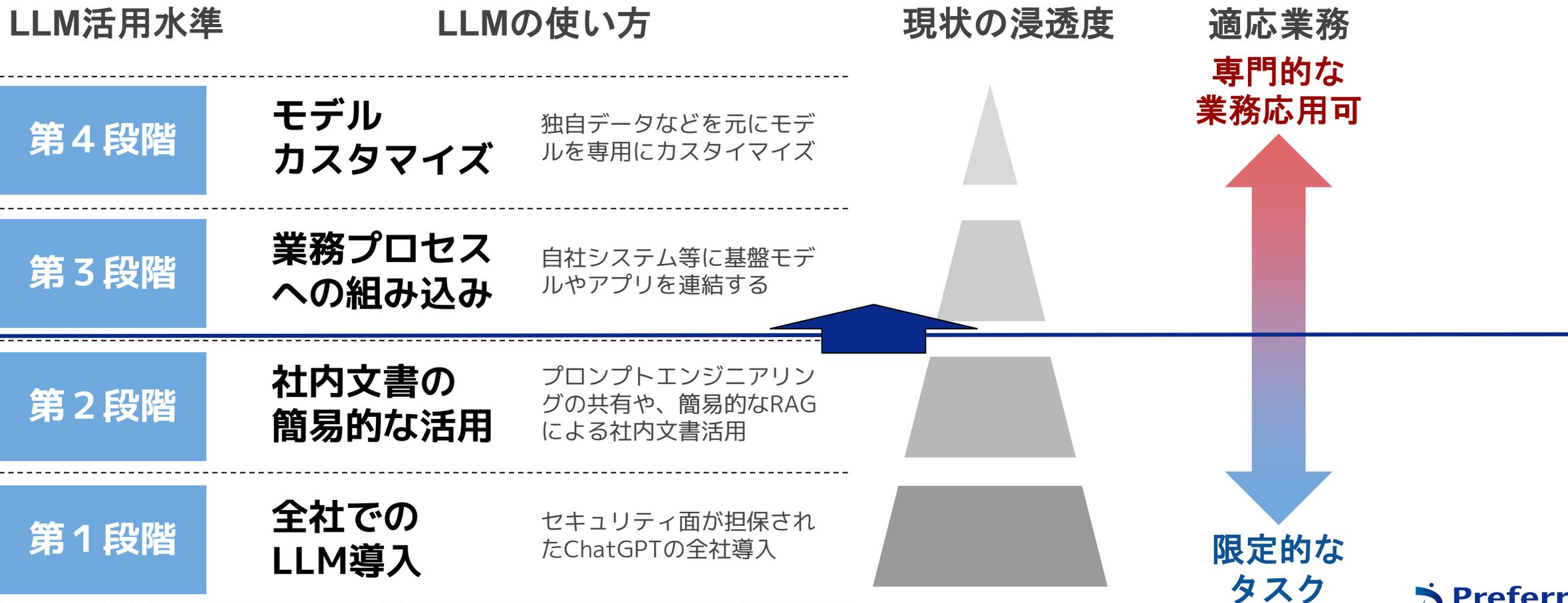
ライブラリ開発

- qfeval: 取引戦略開発・金融時系列処理用内製ライブラリ
- japanese-lm-fin-harness: 金融LLMベンチマーク
- pfhedge: ディープヘッジングライブラリ, OSSとして公開

LLMの業務活用の段階

- LLMの活用水準は下記4段階に分けられる
- 現在は第2段階に取り組んでいる企業が多い印象
- 経営指標への効果を狙うには、業務プロセスに組み込むことが重要

AIディスカッションペーパーでも「社内利用に留まる」旨の言及あり



金融ドメインの各業務への導入事例

金融特化LLMの開発

独自の大規模言語モデルPLaMo™をベースに、日本の金融知識を強化した派生モデルPLaMo-fin-Primeを開発。金融業界の課題解決のご支援に活用しています。

特化LLMの開発には、金融ドメインに合わせたベンチマークの整備、データセット構築が重要。

ベンチマーク開発

参考) AIディスカッションペーパーにて「公平性・バイアス」「モデル管理」の課題への対応例

- 金融の”知識”を見るベンチマークの開発
- 金融の”生成の良さ”を見るベンチマークの開発

データセット構築

参考) AIディスカッションペーパーにて「データ整備」の課題への対応例

- 金融に特化した独自のコーパスを構築

継続事前学習

参考) AIディスカッションペーパーにて「モデル・リスク管理」「説明可能性」の課題への対応例

- OSSモデルで継続事前学習による金融ベンチマーク性能の向上を確認
- PFNのPLaMoに対して継続事前学習を実施

金融特化LLM



User

海外からの訪日観光客が増えると業績が上がりそうな上場銘柄は？

🔊

plamo-1.0-fin-prime-16k

海外からの観光客の増加による業績向上が期待できる日本の上場銘柄を探す際には、インバウンド関連銘柄に注目すると良いでしょう。具体的には、以下のような業種や企業が考えられます：

1. **旅行関連企業**: 旅行代理店や航空会社、ホテル、テーマパークなど、直接観光客と関わる企業が含まれます。例えば、旅行代理店の〇〇〇〇、航空会社の〇〇〇〇、ホテル運営の〇〇〇〇、テーマパーク運営の〇〇〇〇などが挙げられます。
2. **小売業**: 免税店やドラッグストア、家電量販店など、観光客に人気のある小売店も恩恵を受けます。〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇などが関連企業です。
3. **化粧品・美容関連**: 日本の化粧品や美容製品は海外で人気があり、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇などの企業が注目されます。
4. **飲食業**: 日本食レストランや食品メーカーも、観光客の増加による需要増が見込まれます。例えば、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇などがあります。
5. **交通インフラ**: 鉄道会社や空港運営会社も、観光客の移動による利益が期待されます。〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇などが関連企業です。

これらの企業は、インバウンド需要の影響を受けやすいと考えられますが、実際の投資判断には、企業の財務状況や市場の動向なども考慮することが重要です。また、最新の情報を確認し、ご自身の投資目的やリスク許容度に合わせて検討してください。

🔊 🗨 📄 🔄 🗑

出力例

金融ドメインの各業務への導入事例

分野特化／タスク特化LLM/SLMの構築

背景と課題

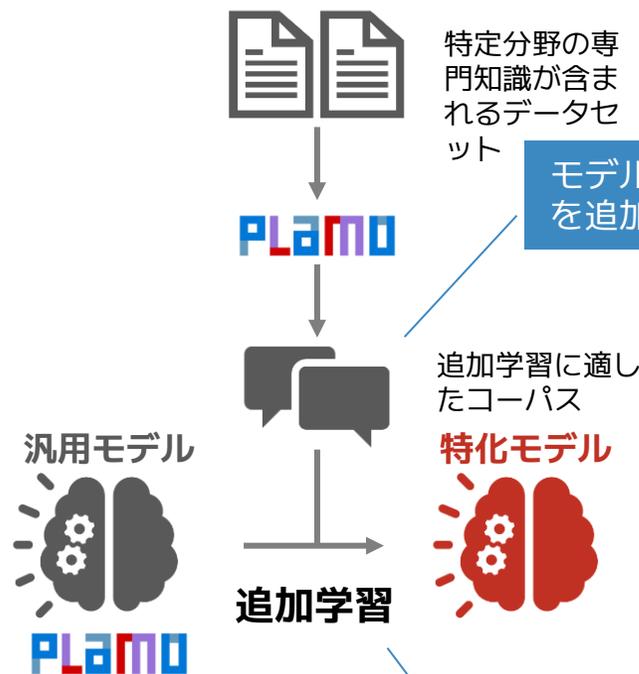
- 汎用的なLLMはすでに業務で活用中
- 一般的な文章に対しては問題なく利用できるものの、専門性が極めて高い分野においては、十分な性能が出ない



PFNのアプローチと成果

自社保有のLLMを用いてきれいなコーパスを作り、LLM/SLMへの追加学習に使用

アプローチ



モデル自体を保有しているため、その出力を追加学習に使用することができる

成果

- 特定分野の知識を有したモデルにより、特定タスクにおいて高い性能を発揮することを確認

フルスクラッチ開発をはじめ、LLMの構築や追加学習に関する高度な知見を保有

まとめ

- 金融分野での生成AI活用に対するモチベーションは高まっている
(弊社への引き合いも多い状況)
- 実業務プロセスへの活用には、
LLM関連技術 × 金融ドメイン知識
の各項への深い理解が重要な段階。
- その事例として、分野/タスク特化モデルの作成についてご紹介した
- 業界内での知見の共有や、ユースケースに合わせた実証ベンチマークの策定などが期待され、貢献もしていきたい



Making the real world computable